蛸壺塚

863
70

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』 請求記号 863-70

ガラス使用

蛸壺塚

863
70

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』 請求記号 863-70

ガラス使用

863
70

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70

ガラス使用

863-70

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70

ガラス使用

三脚、浅く建て山雲の巡りを[illegible]
舊門の飾風をあつてこれをあらしめ中の金[illegible]
ふるきを[illegible]とし雲のたゝる明石の海[illegible]
人々の社の森に一四の塚を築くその世[illegible]
古義の吟一[illegible]

蛸壺

[illegible]の一章をしつめ相壺の名のひゝれるかうしと
[illegible]名を[illegible]
[illegible]の[illegible]

京極中川の深夏法[illegible]
社中[illegible]
[illegible]
[illegible]
碑おのゝ[illegible]
懐旧の[illegible]
[illegible]

廣賀川の五百藏書

播州明石浦
芭蕉翁発句
塚之圖

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

蛸壺塚伝説と頼文

弘法明暦元年十月十八日芭蕉翁僧蝶夢誌る

芭蕉翁碑文一巻一冊

嘗中之孫の子この一湖東の俳興ちて釈の雪由

祖翁の松ぶさを堀くぶさ孫とこの一巻り

ふしぎかな千鳥乗ちの風伝ふて年ち

さうんかく島の時ち孫のちく雪島ち

釣ちさ塚を建ちく此火の風ぶくの海のこの釣ちを

島海ち孫を然ちく此の海ちの蛸ち

塚ちを築ちくぶの蛸ちの蛸ちの

あまり九十余ばかりとうかの東ちの八幡のふもと

塔の印力ちを風雅の源ちのあるものおと

いまち孫風ち伝くちさ孫ふすち伝ちくちの

さいしんおのちくち海ちうきくちかくちち

弟孫のかのくち世ち代ち代ち人絶ち

一ちをおちちち世ちあるち

祖翁ちをのうち海ちち

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

秋のこゝうをおくとて　なつかしの時のあくれ
ゝと成を覚ゝ　明石の浦の秋の景色
ゝ　宮こ　常盤　長田川の山寺　坊谷の家
行平を師とし　業平を友とし　勤し　鋪壺塚
ゆゝしきめでたき　小さき　人の色　碁き
所ゝ　碑　と　舞く　貴ゝ　涙を　そゝ　しゝ　かゝ
ふ　行　ゝ　つ　ゝ　の　ち　ま　千　ま　の　城　の　樣　ま
ゆ　つ　ゝ　や　ゝ　ゝ　ん　ま　ま　ま　ま　の　下　ゝ
樹　中　の　ま　ま　を　く　法　楽　の　詩　歌　年　ゝ　ち

法華の　月　紅　の　壇　を　小　と　歌
地　を　ト　ー　て　ま　の　碑　を　建　ま　ー　今　月　ま　ま
秋　霊　の　絵　ま　小　ハ　と　ま　ま　し　ま　ゝ　仏　法　の
千　ま　ま　異　ま　し　ま　ん　ま　ま　ハ　神　ま　ー　風　雅　也
冥　加　を　以　の　り　ま　り　ま　ん　ま　ハ　祖　業　を　風　流　の
礎　ま　り　後　ゝ　ま　ま　ん　ま　ま　り　ま　ま　我　門　ま　ま
此　碑　の　み　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　此　源　ー　ま　風　流　を　ま　ま　ま　ん　ま　ま　ま　ま　ま

明味五年己辛十月中八日於人麿社月照亭興行

蓼汀　　蟬美

月為一切ちかの素の山ちかなる
汐浪さむしくるおわるとも　油　山雪
きりの中に切る音のしるく　黄裳
絡の屑は拾ふ　青角
夕陽の蓊　青の新　烏滸
拾ひかねる紅のうめの　素嶺
ちらばるさうしのたもの　雪磨

蟬の切りて生ずるの茸　第五
日ふるかの紙山のうちかなる　第年
ひかの屋年屋の屋の屋　東茅
瀬柱の信ち橋ふ　嶺南
るかの雲ちかなる　蘭渓
雪の紙を何ちかるる　蓍水
拾ちんるちんるる　五橋
松柱の中の社壇の　南壁
ちの朝かち　竹子

文下
用舟
五百枝
嘉茂
臥猪
布舟
可由
南路
洞水

洪水
東来
猪郊
希雲
八橋
仮友
君嶺
一茶
當和

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70

ガラス使用

無一　海物
芦中　寿石
一石　鶴山
後抑　雨人
遠光

月休　栄晋
普山　東周
仙枝　丈猛
波光　其水
芦物

白雲
黒人
黒朝
写竹
黄鳥
一之
羅東
牧業

下畧

巻二

東葵
山雪
文下
百枝
第五
雪臂
勃城
用舟

巻之

碎き かくれ 月の 影の さする　　蕪水

花の 海も 波 あらはれの　　山雪

苔 さ さ 小 も 初 花 雪 しを　　雪臂

ち ち 苔 ち し 蛙 の 売　　布舟

う 橋 も 流 さ 花 さ う う 八 重 か 重　　竹子

り 肌 金 を 拾 く る ら ん　　青角

郭 ち ひ ち ち 出 ち 月 ち る 東 芳

此 戸 を さ ち を 内 の 小 時 雨　　五百枝

巻四

月 雪 ち 此 戸 を 梁 の 石 の 水 雪　　鳥任

ち る も 橋 ち か ち う 家 雪　　山雪

橋 笛 を 猫 ち 屋 を ぬ お 出 ち　　青角

屋 月 を 眺 く 除 ち 毛 る り　　五橋

奈 掛 ち も 小 ち ん ち る ち 五　　奈嶺

ち ち ち む く　　時 北 雪　　布舟

杣 小 石 の 火 を 焚 く 倩 ち る 巌 め　　蕪水

う ひ ち う ん ち 彩 西 月 の 鍬　　丈橋

巻五

[illegible] 塚の[illegible]　葉渓

[illegible] 山も　山雪

[illegible] 竹子

[illegible] 嶺南

[illegible] 其猿

[illegible] 芸棠

[illegible] 五枝

[illegible] 宋年

巻六

[illegible] 塚の[illegible]　五百枝

[illegible] 山雪

[illegible] 宗嶽

[illegible] 薪水

[illegible] 用舟

[illegible] 其猿

[illegible] 布舟

[illegible] 玉角

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

巻七

歳経も去り行く流れ塚の上　五橋

月日の清き光の和歌浦　山雪

時の来て月の面影比ぶれば　用舟

程のなるべしいさ桜花　勅撰

皆ともに咲き出づるこの春　黄裳

昔の小雪の降りしかの色　栄五

春日松ちらくしの緑新眺　五百枝

うるはしの和歌の浦波　竹子

巻八

春の来る和歌の浦の月もうら　南磐

本の葉の上に雪も久しき　山雪

色深くして積の初雪ちらひく　栄年

今の時雨に何はくあるる　葉溪

さざなみの波の上に雪を降ぬと　青角

あちらもあれもあれの松の下　みな下

世の中の都のうちの家作り　巖南

調べも如の調べ　黄裳

巻九

塚の名の所々如月のあけぼの　嶺南

横もたれたる如法寺の炬さし　山雪

鳥の袋出て冬の暮て　鳴沈

陰々と時雨をかけて　東黄

陰々と雪て雪かぶる和尚　雪臂

藤ちる如　紅葉　紅葉　赤嶽

ちらちら雪くて鶏なく　南蛮

茶湯ちいて　改下　久下

巻軸

此塚ちらちら如月の牡丹　布舟

義母　義母　体命　山雪

物さびて　物の根　茶椀　貫猿

紙ハ　紙ハ　紙ハ　南壁

もうもう塚下の町の　米幸

雪の間　雪くハ川　竹子

東北を　松の　東溪　菜溪

何　何　何　菜嶽

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

追加

山寺

神垣の苔ふる鳥居一十百顔

雲ゐ[illegible]高の小ぬ道　正百枝

[illegible]　布舟

[illegible]　貫猿

[illegible]　久下

[illegible]　用舟

[illegible]　奈岩

[illegible]　玉隆

常座探題

[illegible]　越中　勅岐

[illegible]　京　久下

山茶[illegible]　用舟

[illegible]　小田　東菁

[illegible]　敏坂　薪水

[illegible]　茶五

[illegible] 冥衆
[illegible] 芳蒙
[illegible] 朱志
[illegible] 朱年
[illegible] 南磐
[illegible] 布舟
[illegible] 雲賢
[illegible] 君嶺
[illegible] 東嘉
[illegible] 猪郊

世の中へらし法をんさくれ所中 大哲 写舟
あーとかり根をうき出を小茶うれ 康翁 五楷
絵帽をうかん男や大根引 其猿
夕の鶴のとこやら寺へ帰りをる 嶺南
きら薬や葉ニ寺ニ根のはー 蘭渓
和をあや[illegible]あれ学のむ 京嶺
[illegible] 仙枝
[illegible] 鳴澄
[illegible] 青角

蛙の出て鳴ぬ夜は火燈の邨　西百枝
炭竈や雲のうゝ夕ゝ　山雪
雲ゝ水雲雲ゝ水ハの色　蝶夏

四季

雲や梅を花蕎の山の谷　嶺南　庶兒川
云ふ雨降ん春ぬいとしうる　葉溪
戸口うゝ暗の春ありり海ゝの里　南雲
文ゝ如ゝ如ゝ春ゝ如ゝの春　波光

蕨陰ゝ水酒ゝ山ゝ春の雲　其猿
雲陰ゝ山ゝ山ゝ火燈哉　冬祐
うゝ山ゝ春ゝ千葉の新ゝ　乘水
老の秋ゝ猫ゝ山ゝ巨燈ゝ　仙枝
雲ゝ春ゝ陰ゝ春ゝ陰ゝ哉　鳴住
ゝゝ春ゝ風ゝ春ゝ山ゝ樣　女　梅良
鶯ゝ雲ゝ鶯ゝ雲ゝ春ゝ　や之
雲雲の風ゝ春ゝ春ゝ邨　とよ
千鶴ゝ三ゝ四ゝ春ゝ蛙ゝ　海さ

山ずりくあれさはしの雨ぬれ　里丸
苔の宿りしらぬ音ずれ　はち
野を捨てく志のあるあうぶ　ちん
さくらちるくれなゐ　やり
屋根蓑のかくれのけぶる　丈百枝
ながしやあるもの　五橋
かさしの雨ぬれあるさかり　鳴鳥
市中の忠ーなりぬ　東周
藤のうすやはらかなるあるうぶ　青角

鳥の声うぐいす　素堂
やうくく咲きそめし　氣錢
海ゆかり　紙をゆめ出もあるんか　三集
帰雁や一ぱいうりの書　布舟
温泉や孫ちくれ　成功
春雨や蝶の夕絶をひきまく　安房
春ぶくる宝ちやおさうり　少手　蘭二
一二軒桶ちくり野　菜の花　雪晴
掃く森あるふ蝶一虫の夢　大雅　弁子

[illegible] 英島
出[illegible]やさちの[illegible] 写作
鶯のくるまく[illegible]やちとれて[illegible] 婚路 米年
ちうおの[illegible]を[illegible]水の音 八幡畑 十和
[illegible]の[illegible] 敏坂 薪水
夕[illegible]月をぬる[illegible]の[illegible] 寿石
[illegible]ひ[illegible]の[illegible] 栄五
[illegible]の[illegible] 五嶺
[illegible] 泥仙

[illegible]さの[illegible] 一石
[illegible]あ[illegible]と[illegible] 襟山
[illegible]の[illegible] 中富 朱志
[illegible]の[illegible] 南路
[illegible]の[illegible] 可由
[illegible]の[illegible] 冨泉 臥猪
[illegible]日可南 琴風
[illegible]撥 洞水
[illegible]野 義伯

[illegible]　五流
[illegible]　芙蓉
[illegible]　鳳翔　耳比
[illegible]　二川　福田
[illegible]　仙魚　福濱
[illegible]　東黄　小田
[illegible]　桐　[illegible]
[illegible]　魚文　楓
[illegible]　[illegible]　山園

[illegible]　魯一　之木
[illegible]　君嶺
[illegible]　淇井
[illegible]　希雲
[illegible]　芦仲
[illegible]　八檜
[illegible]　海狐
[illegible]　當和
[illegible]　猪郊

勝軍の幾度か梨の花　坂友
我背子も涼らむ子の部　東来
又出る星もかくちとあり　園包　其水
秋立やさらぬ雲も芦の穂　芦洲
栗うりの坊ふく扇山哉　白雲
松小松の火も雲のあり蝉の声　星人
蓮葉やあらぬ水ぶくれ　林田　雨人
落さうな幾日も葉の焼らうか　鳥木
蜻蛉や裏を出る蓮あり男　朱雀

夢塚へ捨て泣て捨う南　少年　李雨
葉の中ぬり出す日の白ひ　普山
捨て物の側へ出す蓮汐干哉　羅東
吹ひるを海の廣さや秋の風　月休
夕立や御の蓮の泣のうと　生蛩　禅仙
和歌やその涼あり　久雲
夏ごろの名を出すかりかりや哉　千里
十数ろ小人ともあ蓮雲　探舟
雲点も蓮ごろんをうりの秋　一路

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

[illegible] 南都

山吹や[illegible]なくなる日の光　浪美　懐河

[illegible]　尾京　蚊角

出[illegible]月の雨[illegible]　家河京　一之

[illegible]　雅路　桐圭

[illegible]　方旧

[illegible]　玉蘇

[illegible]　志柳

[illegible]　四

[illegible]　柳柿

[illegible]　十吾

[illegible]　露羽

[illegible]　砂明

[illegible]　廣嶺　園吟

[illegible]　大塩　蕉水

[illegible]　志方　秋雲

[illegible]　小柔　帰享

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

[illegible] 又[illegible]ふり　管訳

山[illegible]の[illegible]の白い　船之　柏

[illegible]　東来

[illegible]　古冨　指南

[illegible]の[illegible]　別府　冨春

[illegible]　明石　梢々

[illegible]　山貴

[illegible]　霞桃

[illegible]　知風

梨の[illegible]小所ゝ果やゝ[illegible]　小左衛　孤桐

[illegible]の[illegible]　山樹　山雪坊

[illegible]の[illegible]　[illegible]

白濱[illegible]秋の[illegible]

[illegible]の形[illegible]　[illegible]

諸國名産

[illegible] 東武 鳥酔
[illegible] 山 烟低
[illegible] 尺五
[illegible] 弟几
[illegible] 玄武坊
[illegible] 夢太

[illegible] 常陸 三日坊
[illegible] 上総 多梭
[illegible] 下総 春雨
[illegible] 陸奥 可臭
[illegible] 袁西
[illegible] 知昂
[illegible] 星楼
[illegible] 露秀
[illegible] 出羽 梅溪

馬ふくん古松ふるさと　越後　宣中
秋ノヤかくれ海を時雨　素堂
夕ぐれ雲ふるまつ時雨　眺月
嫁都や北ん方ふるさと　牧牛
鶏ぬや海ふ一ぬ横ふり　越中　江堂
菊の花狐もふる岩ふる　不艾
孤山へ行ふ鶴小雨ふる　璃史
行ふ暮分の沼の情ふる　能宣　康工
参籠ふ岩ぬ雲の高ふり　晃桂

百尔
ふ岩ふ雲ふ梅の花　かがく　乃見
各見や年（杉ふ我のふ　素水
紫陽和ふ山ふ花ふ　紫花坊
山川の小屋ふ橋ふ雑　芦隠
松ふ山ふ舟ふ雨ふ　呉夕
かれ岩ふ月ふ秋の雲　尼　素園
夢や京へ入口ふ　越ふ　梨一
和の色ふ嫁のふり沼　蕉雨

雲や一日しとしとと降のたり　声さ
へふけとも寄を引をへ小松殿　孫　弁母
野のちんのの嬢くうの　雲古
あのけう行を祈をかの秋海棠　信濃　香都良
一ツ糸を水鏡に似て菜を　左十
盥人の袖をもかへる雨仙　少年　幾重
桂をそへ赤馬の寄かかる　甲斐　蕉雨
散すうつ風や穂をしぬく雲の色　麦丸
簾巻かの底に月の影　貞流　弁坊

あるもうり関の雁　陰又
雲や立井のきりぎす　尾張　也有
はく見る賽法巻を市の葉ゑ　八亀
うつひとやすうけ行をうけ　蝶羅
つのあるものとをとをとを　遠江　南素
はとをとを雲巻を出るうの花　駿河　乙児
曙かあ小う夢うしや　農一ツ　清山
三井寺やをもを絵の燈ともと　盤古
和の絵や塩を見る降ゑ　春程　素山

国立国会図書館　タイトル『蜻壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

さとをとりて多行義少郎の事うる　伊勢　二日坊
君を偲の義出しをり　桔梗野うの邨　民古
ゐ和上や寺の畑の島撃　左升
秋しるしや無日　桔梗　桔をを入楚
極桂を飛を　猫の島ひ鼓　志ケ　午炊
人の義も　ひをを義　寒和をし　橋　三汀　百鶏
をを姫雛や上しをを水の濱ふをり　伊賀　魯石
ををくの八事の義ゥ　おを後月　紅升
竹陰ゥ西戸を　さをを　鳥　相雨

出女の面めゥ義や　秋のをを　浪速　旧國
入り清出　寺義　稚加姫　寸馬
ゆ砂の光りまを西　牡丹うを　麦塘
歩嵐の咲をゥゆの事て疑　佐お　白翁
山多ゥ時面のをハを　夢野哉　慈宇
義八を見義をりをめの　百木
ゆ義ををゥゆ新も　芭蕉うを　佐中　麦炭
下陰をゥ咲を高ゥ山ゥ新の玉　雪夕
水ゥや雪しゥゆ　佐渡　雪岱

[illegible]　風語
[illegible]　安藝　風律
[illegible]　周防　桂系
[illegible]　常陸　抱村
[illegible]　巴山
[illegible]　常陸　孟圭
[illegible]　紫星
[illegible]　紀州　梅牙
[illegible]　梔葉

[illegible]　梔山
[illegible]　薩摩　侍村
[illegible]　紀州　塚破
[illegible]　但馬　姐秋
[illegible]　嵐紅
[illegible]　土佐　子羽
[illegible]　讃岐　周雨
[illegible]　麦冬
[illegible]　昴峯

郭公聞かぬ国にすみなれて　丹後　弁園

橘の香荊の垣も古へ　其翠

ちるとはなしに出る雲　花友

頃崎の門に子待の山江一和

黄蘆葉の沈む夕の秋　風弟

涼しさや宮く歩のさはあしと　簡兮

かくしこれ月あるかの月　但馬　本和

寒ちとせ山の松葉の秋　近江　後郎

風に逆らふ船の上の時かな　琵湖

時雨一人寺門の秋の暮　栗津　魯江

蛙の出めやすらの松の根　智丸

明るうて干しく法ゆうん　吉尚

牡丹雪無畫に除しけり　菊二

文殊の面くてふ仏の宋　巨湖

小屋風を染潮の屋ふの弧祭　美濃　雪完

長宋さや蝶のさらはれ来　素流

船ちり狩さしかや法華記　巴陵

雲の春や今のさ寺ふ音　阿蓮

蛸壺塚集跋

茲浦固佳建碑亦佳後之遊于茲者乃必道浦之美又得一美朝霞益奇夕月益妍何物好事做茲風計果尓也則山李隱士所以建茲碑之志也得矣想集之行亦同茲浦之朝霞夕月長為文具于後其必可

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

14142

知也已戊子之冬桃水跋

皇都書坊橘店治兵衛梓行

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70
ガラス使用

知也已文子之冬我水跋

皇帝十年初春后治兵術梓行

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70

ガラス使用

863
70

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』　請求記号 863-70

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『蛸壺塚』 請求記号 863-70

ガラス使用